

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木 5 / 金 3	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	ドイツ語 German		
対象年次 1 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 木5:K26 ・ 金3:M12	科目分類 外国語科目(ドイツ語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 目 正勝 / Eメールアドレス: <a href="mailto:m79sakka@aol.com">m79sakka@aol.com</a> / 研究室: (非常勤講師室)			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい: ドイツ語文法の基礎を学習する。平易なドイツ語文による練習問題を通じて、語彙を増やし、正確な発音を身につけ、ドイツ語文読解のための確実な土台をつくる。テキストのドイツ語文やその他の記事を通じて、ドイツの文化や地理、また現代ドイツの諸事情について理解を深める。</p> <p>授業方法: テキストに従って進む。まず発音規則を覚え込むことから始める。その後、名詞や動詞の様々な語形変化、文の構造の把握、動詞の過去などが続く。現在完了、受動態、関係代名詞、そして仮定表現などまで進む。 教室では、文法の説明のあと、テキストの練習問題にできるだけ多く取り組む。前もって単語の意味を調べておく必要がある。語形変化は練習を繰り返し繰り返し行う。 テキストの音読やテープによるリスニングにも時間を取る。</p> <p>授業到達目標: 正確な発音で読める。初級文法をひと通り身につけ、平易なドイツ語文であれば辞書を引ながらでも読んで理解することができる。簡単な会話文であれば、聞き取ったり、作文して発話したりすることができる。</p>			
<p>授業内容(概要)</p> <p>『基礎ドイツ文法(第二版)』を使用する。大体2回の授業で1課を終えるペースで進む。</p> <p>第1回、第2回、第3回.....第8課～第9課、未来形、話法の助動詞、文の構造など。</p> <p>第4回、第5回、第6回.....第10課～第11課、完了形、複合動詞、zu不定詞、ドイツの州都など。</p> <p>第7回、第8回、第9回.....第11課～第12課、再帰動詞、非人称動詞、ドイツの文化など。</p> <p>第10回、第11回、第12回.....第13課～第14課、受動、分詞、文の構造、職業名など。</p> <p>第13回、第14回.....第14課～第15課、関係代名詞、仮定表現、ドイツの諺など。</p> <p>第15回 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書: 『基礎ドイツ文法(第二版)』 小島一良 他著 白水社 独和辞典: 『新アポロン独和辞典』(同学社) 他		
成績評価の方法・基準等	定期試験(約90%)、および平素の学習成績、授業への積極的な参加状況(約10%)を考慮して総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			